



第10回  
栗原 知之 さん

江川邸 案内係



夢は、口にすると叶う

「毎日勉強で本当に大変なんです」と話しながらも飛び切りの笑顔を見せる栗原さん。昨年9月から、国の重要文化財である江川邸で案内係として働いています。

大学卒業後、出版社のファッション誌でスタイリストを務めるうち、活動の幅を広げるために海外に進出しました。ハワイに5年、カナダに25年。「日本の生活よりも長くなっていました」と海の向こうの第二の故郷に思いを馳せます。カナダでは、コーヒーの魅力に魅了され、知識ゼ

口の状態からコーヒーショップを開くまでに。さまざまな引き出しを持つ栗原さんの夢を叶える秘訣は「やりたいことを口にすること」。そうすることでいつも周囲の理解と協力を得て、夢を実現してきました。

江川邸で働くことになったのは、海外での経験があったからこそ。海外で日本のことを聞かれたときに、うまく答えられなかったことがたびたびあり、もどかしい気持ちを抱えていました。そのようなことを繰り返すうちに、「日本のことを伝えるのは日本人の責任」だと考えるようになり、帰国し、現在の仕事に就くことを決意したといいます。

身をもって日本の良い点と難しい点を感じてきた栗原さんだからこそ、外国人観光客が来た時、案内係として単に知識を教えるだけではなく、異文化を楽しめるような伝え方を心がけています。

栗原さんにとって伊豆の国市は「優しいまち」。少年時代、抜け出したいと思っていたこの地元は、時を経て改めて過ごしてみると、人が優しいまちだと気付きました。そんな伊豆の国市で、栗原さんはまた、新しい引き出しを増やしています。

連載  
ジヤルガルの  
ほのぼの日記

第60回  
モンゴル伝統文字について



国際交流員がモンゴルを紹介！

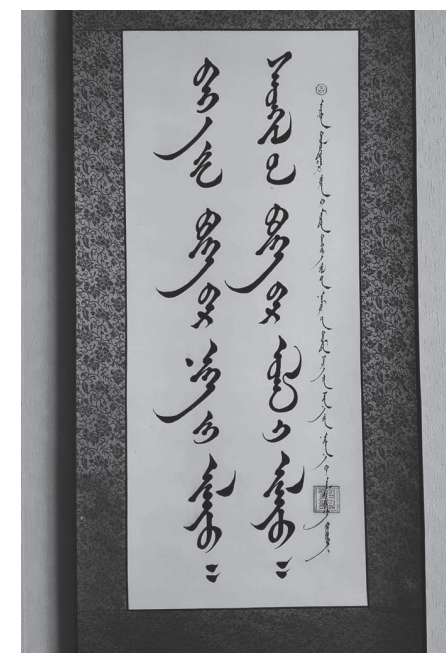
皆さん、サエンバエノーは。春風が強く、変わりやすい天気。母国モンゴルを思い出しながら、伊豆の国市の春の花を楽しんでいる私ですが、皆さんはお変わりなくお過ごしでしょうか。

先月、モンゴル旧正月に合わせて伊豆の国市友好都市交流協会の「モンゴル伝統文字書道体験会」が開催され、多くの人が参加してくれました。短時間のワークショップでしたが、異文化に触れ、モンゴル文字や文化に少しでも興味を持ってもらうことができました。

モンゴル文字は、13世紀のチングス・ハーンの時代、ウイグル文字などをもとに制定されたと言われています。その後モンゴル国では、1946年に公用文字が正式にキリル文字(ロシア語などに使用されている文字)に切り替えられました。そのため、伝統文字は長らく使われていきましたが、1990年の民主化を経て、1994年にモンゴル文字を復活させる法律が作られました。それ以降は、学校教育を通してモンゴル文字の普及が進められていますが、現実には依然としてキリル文字を使うケースの方が多いです。一方、中国内モンゴル自治区のチャハル・モンゴル族のように、現在まで伝統モンゴル文字を使い続けているところも存在します。モンゴル政府は、2025年からモンゴル文字と現在使用しているキリル文字を併用して使用するよう準備を進めています。モンゴル文字は、歴史

と伝統文化の象徴として書道やアートをはじめとした芸術作品にも活用され、モンゴル書道が2013年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。

今回は、モンゴル書道を通して母国の文化を紹介するとても良い機会になりました。私にとっても、モンゴル伝統文字を普及させようと、祖国で一生懸命に教えてくれた先生たちを誇りに思えるひと時でした。また、日本で古くから行われてきた伝統的な行事の書き初めは、新年の目標や抱負を決めるという意味で、モンゴル文字でも書けるといえると思います。それでは、バイアルタエ。



▲モンゴル文字の書道作品  
(日本語訳：丈夫な体で一つを勝ち心の強さで大勢を勝つ)



▲モンゴルの書道家バートルガ・アルタントヤさん

☎ 055(948)1412  
問 協働まちづくり課

かんたん手話講座③

障がい福祉課  
☎ 0558-76-8007 FAX 0558-76-8029

手話は体の前方で未来を、後方で過去を、体の前で現在を表します。「昨日」は人差し指を立てて後ろを差し、「明日」は前を差します。ちなみに「今日」は体の前で両手のひらを下に向け、そのまま押さえるように下ろします。

「昨日」「明日」

